

# 白百合台自治会（白台）防災活動について

2026年6月1日 防災委員会

## 1. はじめに：

当自治会は、10年前までは、しらゆり連合、領家中拠点防災訓練に参加する程度でしたが2016年に発生した熊本地震を契機に今後予想される首都圏直下型地震等に備えて自立的な災害時備えが必要と認識。自治会先輩、自治会役員、青年団員等10数名を中心に有志による防災委員会を立上げ、翌年自治会常設委員会に昇格、現在常任36名、年度会員40数名で活動しています。【別紙1】

## 2. これまでの主な活動経緯

(1) 立上げ：2016年、横浜市防災センター見学、防災活動に10年の経験を持つ自治会訪問でそのノウハウを取得、その後防災委員会の立上げと拡充のため、活動と資金に関する5カ年計画を策定し実行しました。その計画推進にあたり、従来から実施している通常の防災訓練や、防災啓蒙活動、消火器保全活動(期限切れ品廃棄や新規購入支援)以外に、災害時に必要になると思われるハード設備拡充を目的とした以下の(2)～(4)を計画し、それを推進してきました。

(2) スタンドパイプ式初期消火器具導入：近隣の町内会で「スタンドパイプ式初期消火器具」を導入していることを聞き、消防補助金と自治会費により自治会の全6ブロックに導入する事を2017年に決定。消火器具が台車に乗っているため消火栓位置を気にせず導入出来る為、各ブロックの中心に1台ずつ設置すること決定、少し計画より遅れましたが2025年迄に全設置完了しました。【別紙2】

(3) 感震ブレーカー導入：木造住宅密集地域であるしらゆり地区は、直下型の大地震発生時における同時多発延焼火災の危険性が強く懸念され、このため当時の内閣府啓発資料の勉強会を実施、その結果、2017年に市補助金を活用した感震ブレーカー導入を計画、10年後に自治会世帯設備率100%を目指し事業を開始しました。その後の推定設備率状況は以下の通りです。

2017年度：26%、2023年度：46%、2024年度：61%

(4) デジタル簡易無線機導入：災害時、公衆通信不可になることが想定され、デジタル簡易無線機導入決定。2017年に2台購入後感度調査を実施。【別紙3】山坂の多い白台地域でも使用可能と判断、以降5台(2018)、3台(2019)、2台(2021)、2台(2023)購入。現在計14台保有、防災委員に配布し防災委員による無線機交信テスト、自治会防災訓練や拠点防災訓練にて活用中。因みにしらゆり連合自治会で15台を保有しており、しらゆり地区で合計29台保有し活用中。

(5) 2020年から2023年のコロナ禍の時期：

コロナ禍の間も、防災訓練は規模縮小等により継続的に実施、また自治会館新設の影響で防災予算が窮屈でしたが、訓練等は通常通り遂行。2024年～2025年度は、会館新設も終わり、ほぼコロナ禍以前に戻った活動を実施しています。

## 3. 2026年度および今後の防災活動：今年度防災訓練予定について

- (1) 連合春期防災訓練 7/11 (従来の秋期連合防災訓練に相当)
- (2) 連合夏期防災訓練 9/5 (従来の白台防災訓練に相当、消火訓練を主体)
- (3) 領家中拠点防災訓練 1/17 (今年度からより現実的な訓練に方向転換予定)
- (4) 連合とは別に、白台ブロック毎に小集団でのスタンドパイプ利用訓練計画中  
今後、災害時安否確認訓練等、ソフト面での充実を図っていこうと考えています。